

CONTENTS	ページ
市長・議長 年頭のあいさつ	2~3
2020年 柳川市 10大ニュース	4~5
1月25日から「ふるさとwish」放送ほか	6~7
マイナンバーカードはこんなに便利ほか	8~9
社会教育功労者表彰、就学援助ほか	10~11
地域おこし協力隊コラムほか	12~13

1 / 1.15

合併号 2021.No.378

次回の発行日は2月1日です。



ごみ減量を目指して新しいごみ袋運用開始 小泉環境大臣が注目

1月から新しいごみ袋の運用が始まります。可燃ごみ袋は、「燃やすしかないごみ」袋に名称を変更して料金を値上げ。新設するペットボトル専用袋とプラスチック専用袋は、これまでの資源物袋の半額に値下げして、市民の皆さんが「分別すれば得をする」方法を考えました。この市の取り組みに小泉進次郎環境大臣が注目。12月15日に金子市長とオンラインで会談した小泉環境大臣からは「燃やすしかないごみ」袋は、シンプルかつユニークな名称で発想が素晴らしい。環境省として柳川市の取り組みを発信したい」と激励のメッセージを受けました。



小泉環境大臣との会談には多くのマスコミが詰めかけた



【右】プロ野球ドラフトで指名を受けた大曲投手。毎日食べる柳川産海苔を力に変えてプロの世界での飛躍を誓う【上】準硬式球では異例の150キロを超える剛速球と鋭く落ちる140キロ台のスプリットが武器



柳川探求

No.10

柳川で光り輝く人や魅力的なもの・ことを紹介します。

準硬式野球部からプロ野球へ 最速 154 キロの直球をさらに磨く

大曲 錬 さん (吉原・22歳)

原点は柳川で始めた少年野球

昨年10月のプロ野球ドラフト会議で埼玉西武ライオンズから5位指名を受けた、市出身の大曲錬投手。その原点は、柳川で始めた少年野球です。

大曲投手が野球を始めたのは昭代第二小学校3年生のとき。2歳年上の兄樹さんの背中を追いかけて柳川昭代ドリームズに入部したのがきっかけです。昭代中学校卒業後は、野球の強豪西日本短大附属高校に進学。「高校では試合に出れず悔しい日々

が続きました。野球を続けるか迷っていたんですよ」と大曲投手は壁におつかった高校時代を振り返ります。

圧倒的な成績を引っ提げて プロの世界へ羽ばたく

福岡大学に進学した大曲投手が選んだのは、硬式ではなく準硬式野球部でした。「とにかく試合に出て成長したかった」とそのときの心境を語ります。大学では投球フォームを一から見直し、横投げから上手投げに変更。これが功を奏し、一気に才

能が開花しました。硬式球より球速が出にくいとされる準硬式球で最速154キロを投げるまでに成長。大学の公式戦では35勝4敗という圧倒的な成績を残しました。

昨年7月からはプロ野球選手を目指し、硬式野球部の練習に参加してきた大曲投手。そんな準備もあり、見事プロ野球への扉をこじ開けました。「プロの世界に進むなんて想像できなかった。球速をさらに磨いて、日本一に貢献できる投手になりたい」と目を輝かせて話してくれました。

編集後記

写真を撮るため、マンション屋上へ。先にマンション管理会社の若い社員が、脚立とタラップをスッと上っていく。屋上から「ふんふん」と言われ、脚立から足をタラップへ伸ばし、気持ちは届いたつもり。年のせいなのか足が短いのか、現実の足とタラップには、かなりの距離がある。(規)

柳川観光大使

大淵盛人九段の囲碁入門

今回も囲碁のルール「囲んだ石は取ることができる」です。石は縦横の線で呼吸しています。右図のように2個、3個とつながれば呼吸の線は多くなり、また、中央、辺と隅では呼吸の線は変わります。これを囲むと囲まれた石は取ることができるのです。

